

和紙：日本の手漉き和紙技術 「細川紙」ユネスコ無形文化遺産登録から10年

登録 平成26年11月27日

世界に誇る「細川紙の紙漉き技術」がユネスコ無形文化遺産に登録されてから、10年の節目を迎えました。島根様々な取組にチャレンジしてきた10年。世界遺産の「京都・元離宮二条城」を会場に開催された記念事業を取材。

県浜田市の「石州半紙」と岐阜県美濃市の「本美濃紙」と3紙連携で、イベントの開催や新商品の開発など、また、緊急企画として、日夜、技術の研鑽と継承に励む「細川紙技術者協会」の皆さんにインタビューしました。

小川町

和紙の語りべとして

小川町の魅力を、和紙が歩んだ様々な出来事を通して語り続けて20年。ユネスコ無形文化遺産登録は最大の喜びでした。10年を迎えた今、手漉き和紙を守りながら継承することが求められています。和紙に加えて原材料を活用した商品開発や和紙に惹かれる外国人も多いことを実感しており、まず小川の人々が知って内外にアピールしましょう。

新田文子図書館長



図書館では、節目を祝う展示会を開催。10年前に漉かれた細川紙の展示も。

毎年11月27日は「小川和紙の日」

条例の見直し・強化へ

細川紙を含む小川和紙全体の発展や、伝統文化の継承・産業振興に向けた取組に、それぞれの立場で努めるとした内容。「十年一昔」となった条例を、時代と実情に見合った、より実効性のあるものにするべく、ブラッシュアップしています。「チーム小川和紙」の一員でもある議会の役割・機能を明確にし、さらに強化を図っていきます。



小川和紙の日を定める条例

京都市・二条城

細川紙技術者協会 内村会長による「誓いの言葉」

この10年間で多くの先輩方が高齢化を理由に引退されました。一方で、新たな細川紙の技術保持者が3人誕生し、まさに「世代交代」の最中です。私たち正会員は、明日の技術保持者を目標としている研修員に持てるものを全て伝えていきたいと思ひます。今後も、3紙は協力し、尊重し合い、この記念事業を契機とし、改めて無形文化遺産の伝承に取り組む誓いの場とするとともに、さらなる周知・啓発と、保存・活用に尽力することを誓ひます。



12月1日京都市二条城で10周年記念イベントを開催。議員が取材に行きました



Gikai's eye

町民の皆さんの支えが頼り

ユネスコ登録から10年の節目を機に、改めて「継承」していくことの苦労と苦悩に触れた。生き残りをかけた次の10年に向けて、町民の皆さんの支えが頼りである。まもなくリニューアルオープンを迎える「道の駅おがわまち」のコンセプトの1つは「手漉き和紙」。1300年の歴史・伝統・文化を伝える施設の機能はもちろんのこと、期待するべきは「現在と未来」。これからの時代にマッチした手漉き和紙の在り方を発進していく拠点となることを望む。

細川紙技術者協会の皆さんと緊急対談

内村久子会長（後継者育成事業1期生）写真：中央
世界に認められた技で漉いた細川紙は小川町の宝物。この素晴らしさを町民の皆さんと共有していきたいです。

大木ゆき江副会長（後継者育成事業2期生）写真：左
小川・東秩父地域の風土や人々を切り離して技術だけ残していくことはできません。皆さんと一緒に町の宝・細川紙を大事にしていきたいです。

内田茜さん（後継者育成事業3期生）写真：右
細川紙は江戸時代から「大切なことを伝えるための紙」として利用されてきました。歴史と伝統がある紙漉き技術を継承し、これからも研修に励みます。



「職人」の維持と誇りが伝わる数々の言葉



ワークショップでの水切り工芸体験

3紙連携で持ち味を生かしたワークショップを開催



インバウンドを含む来場者に紙漉き技術を披露する中野晴実さん

時代を超えて受け継ぐ唯一無二の技